

三、連携の強化  
定期的な支部組織の会合、年次総会による意志の疎通と懇親。

以上の如く、まだなにより一つ「医史料収集、保存管理」について実施しておらず、一応提言をのべたが、結論は日本医史学会の方針・方法等を参照するしか適切な道はない。

## 19 北陸地方における医史料の保存、 管理の概況について

寺 畑 喜 朔

医史学分野の研究に関わって以来、筆者の体験からみて、医史料の収集、保存管理の現状について、とくに、北陸地域を中心に概要を述べる。

一、医育機関では、金沢大学医学図書館が保存する『古医書』は、貴重書として保存管理されており、一部は史料室で公開展示されている。昭和五十一年に一九〇〇年以前の和洋書を追加整理し、『古医書目録』、後年明治期の和洋書を追加整理し、同目録の『補遺版』を発刊している。問題

点は、大半の図書館員は古医書の保存意義に無関心であり、教育指導が必須となっている。目下のところ、筆者が非公式な意見等述べているが、将来後続の適任者もしくは組織の編成を急がねばならない。

二、公的図書館では、金沢市立図書館が保存する文庫に、『蒼竜館文庫』、『藤本文庫』がある。前者は坪井信良の実家である高岡市の佐渡家旧蔵文庫で和漢書並びに蘭書関係も含まれており、医史料文庫として極めて優れている。また、藤本文庫は明治初期の医事史料を多彩に収蔵しており、きわめて有益である。

これらの文庫は、同図書館では近世資料室として別棟に保存されており、閲覧環境も格別で、保存も極めて適切である。

一方、石川県立図書館には、医史料として纏まった文庫などはないが、明治以降の医事関連行政史料が豊富であり、司書教育も優れているので、検索作業は能率的である。

三、富山県は医史料に乏しいが、近年高岡市の長崎家の好意で江戸期の和漢書ならびに長崎浩齋宛の大槻玄沢の書状の調査研究が可能となり、過去五年間、関係各位により公表され、著作されてきた。ついては、仮称『長崎文庫』の保存管理について、長崎家と相談を重ねた結果、高岡市中

中央図書館へ寄託することとなり、この作業は完了し、当分の間、筆者と図書館長が管理することとなった。なお、長崎家の蔵書については、先年筆者により刊本、写本に分けて目録が作成され『医譚』に公表されている。

四、捨てずに保存してきた史料は、年を経るごとに見直すといよいよ捨て難い史料となり、まずは大分類しつづいて小分類へと、個人史料を目下整理中である。

でき得れば目録作成を最終目標にしていますが、それ以前に、まずカード作成から面倒でも始めることとし、その準備を進めております。つぎに重要なことは、収集した史料を如何に保存するか、また、管理する上で、徐徐に家族に家庭内教育をはじめ、協力させる方向が得られるようただ今努力中であり、成功に期待をかけております。

五、福井県は医史料の宝庫であると理解しています。この事については、本学会の名誉会員である岩治勇一先生のご協力を得なければなりません、地域の会員の強力な支持も重要であり、ぜひとも成功させねばと考えております。

## 20 「医学文化館」を援助できないものか

富田 達夫

日本医事新報No. 3874、一九九八年七月二十五日号の  
大滝紀雄氏の「医学文化館の将来」を読んで驚かぬ者はいないだろう。折角の文化施設が閉鎖され廃館になるうと  
している。今、ここで積極的に手を打たねば徒らに悔を残  
すばかりだ。

史料保存という何世紀にも亘って継続されなければならぬ事業には経済的な援助は当然として、啓蒙運動を抜きにしては片手落ちとなる。各大学に医史的史料を維持してゆく熱意がないのなら、上記「医学文化館」を医史学講座をもたない医学部の史料保管所にできないものか。各教室に、ほこりまみれになっている投棄寸前の資料を「医学文化館」から定期的に全国の各大学を巡回して収容する、などの方法が講じられぬものか。